

<参考資料>

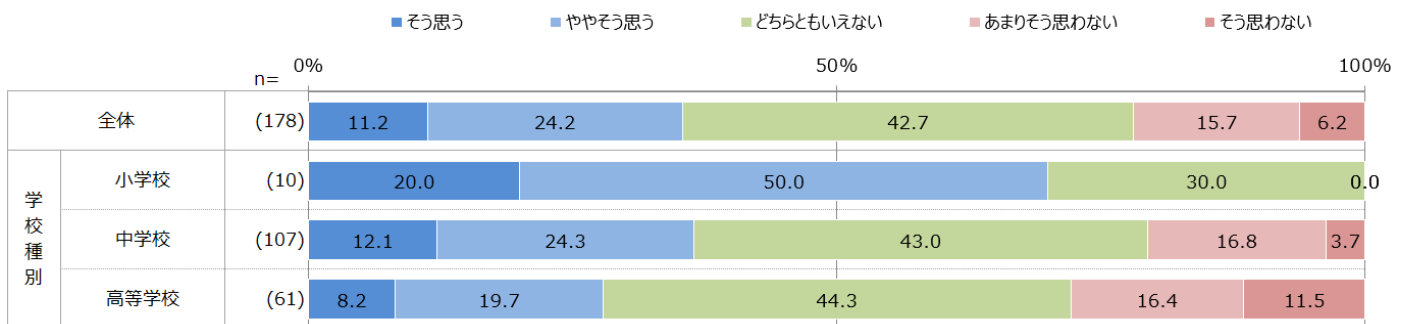
以下、アンケート結果は2023年10月4日にジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社ビジョンケア カンパニーが発表したニュースリリース「10月10日は「目の愛護デー」小・中・高 養護教諭のアンケート結果発表 2年連続で6割以上！近視進行による将来の眼疾患・失明リスクへの危機感～ 目の健康のための正しいデジタルデバイスの使い方も紹介～」の参考資料です。

ニュースリリース：https://acuvuevision.jp/sites/acuvue_jp/files/acuvue-press-0252.pdf

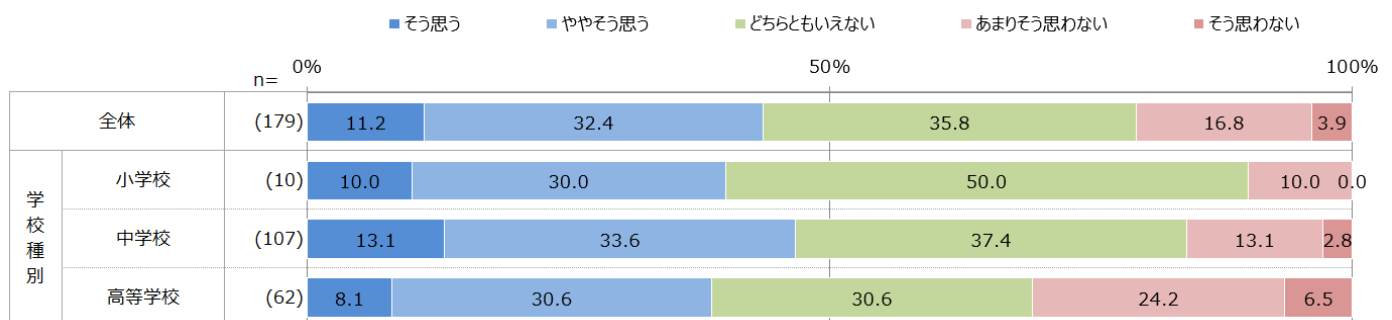
調査概要

回答方法	「中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド」申込時の記入式による調査
回答者数	養護教諭 186 名（有効回答数 181 名）
回答者の学校種別	・小学校 ・中学校（夜間学級、附属中学校 含む） ・高等学校（定時制、中高一貫校、高等専門学校 含む）
回答期間	2023年5月1日～2023年8月20日

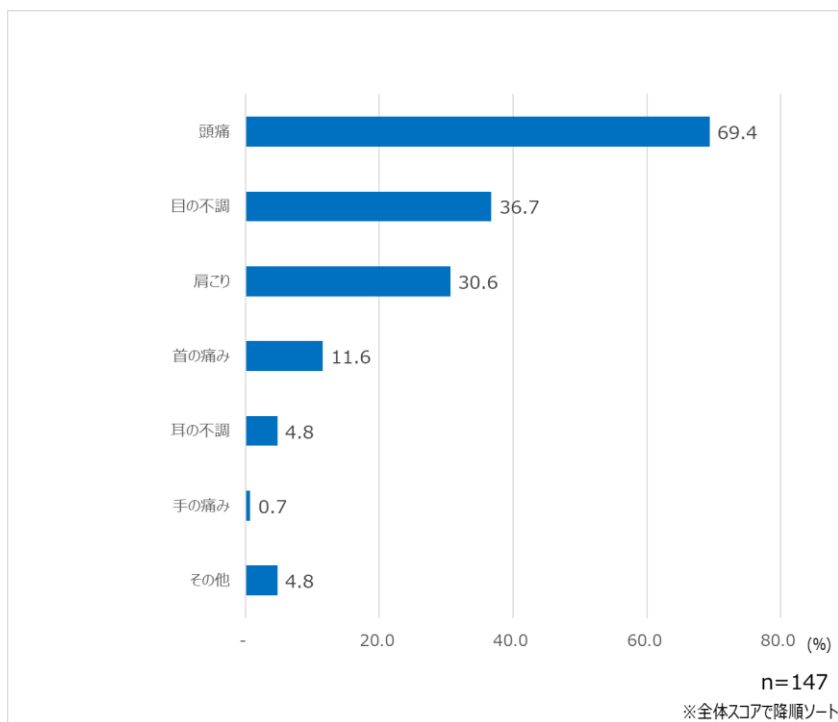
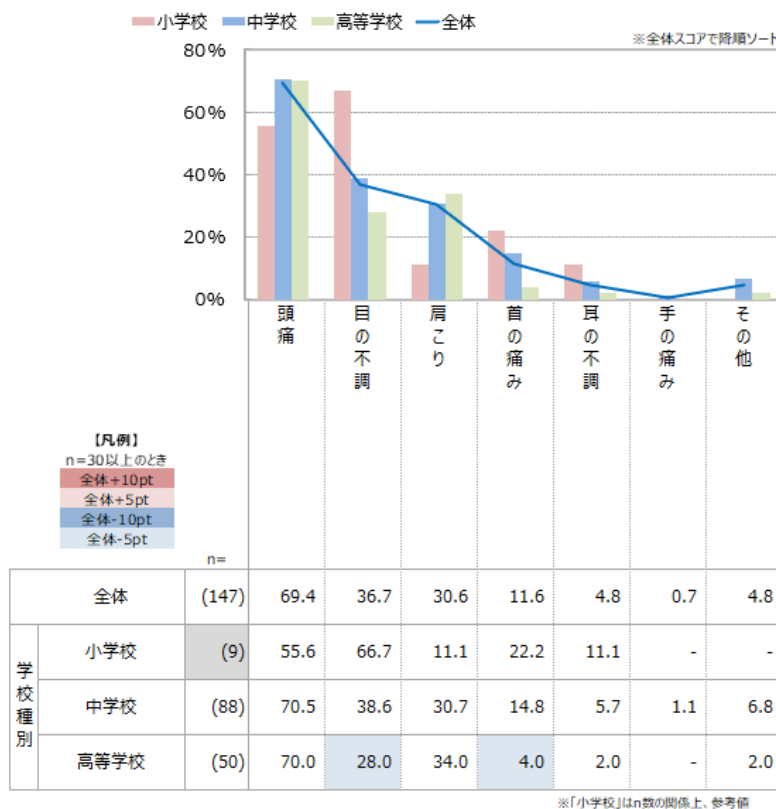
Q1S1. コロナ禍以前に比べて、目の不調を訴える生徒が増えたと感じる。(SA)



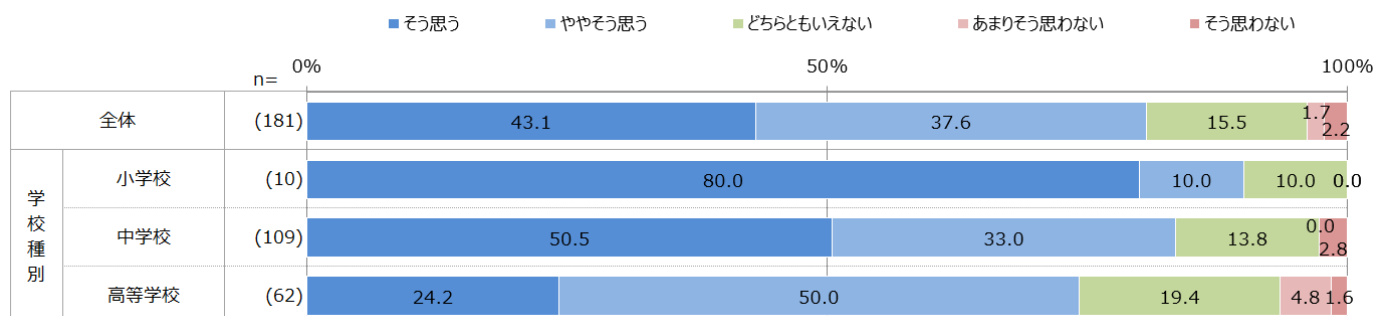
Q1S2. デジタル端末使用後に、体調不良を訴える生徒が増えたと感じる。(SA)



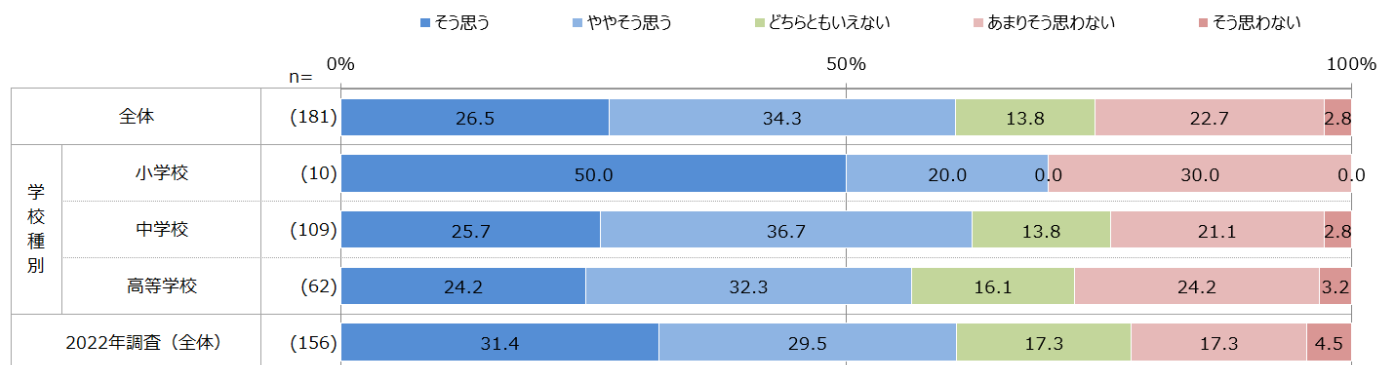
Q1S3. デジタル端末使用後に体調不良を訴えた生徒の症状で最も多いものを回答してください。(MA)



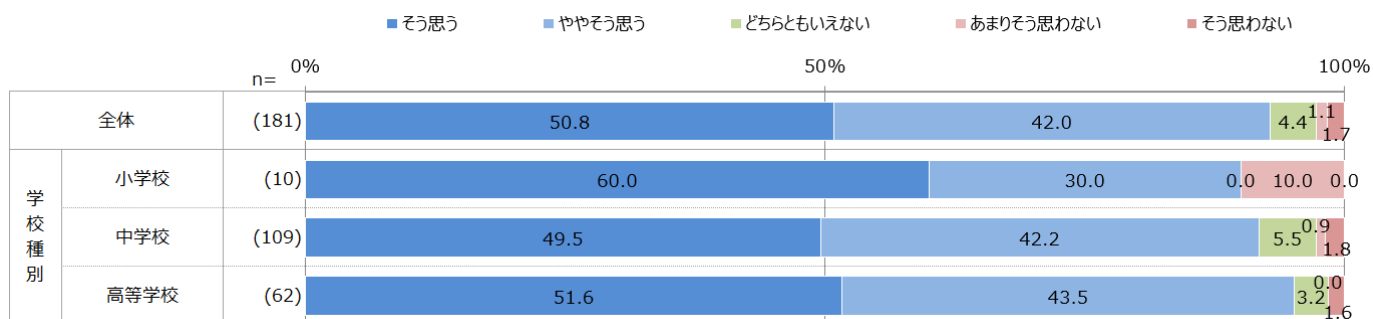
Q2S1. 生徒の近視が増えたと感じる。(SA)



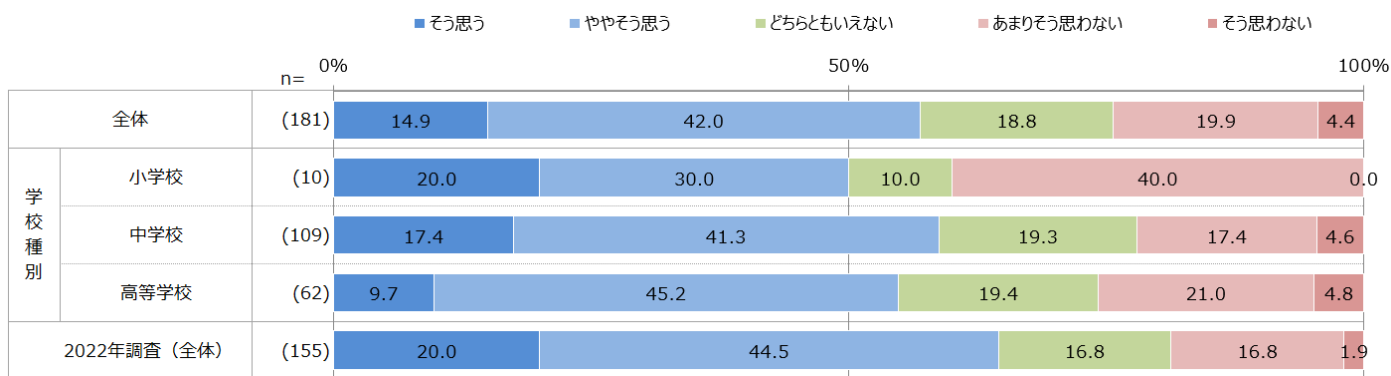
Q2S2. 近視が進行して強度近視になると、将来的に深刻な眼疾患や失明のリスクにつながる可能性があるという危機意識を持っている。(SA)



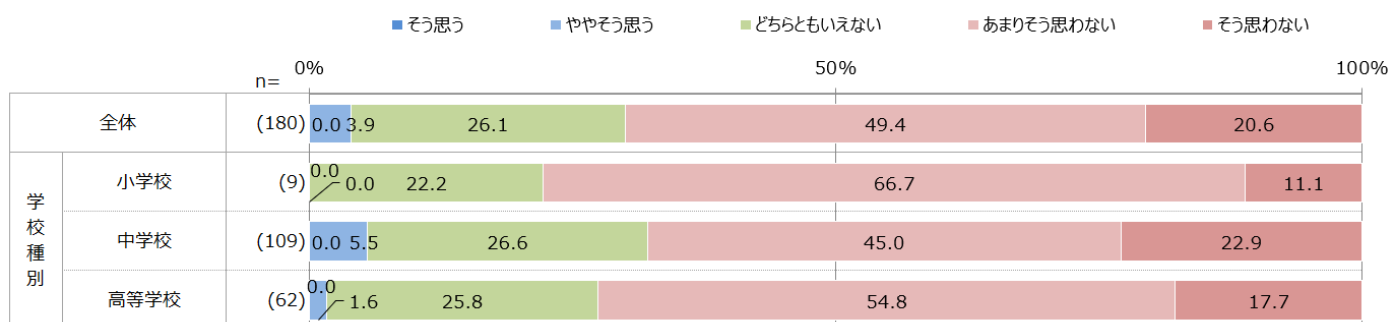
Q2S3. 近視進行を抑制することは、他の健康問題にも有効に働くと思う。(SA)



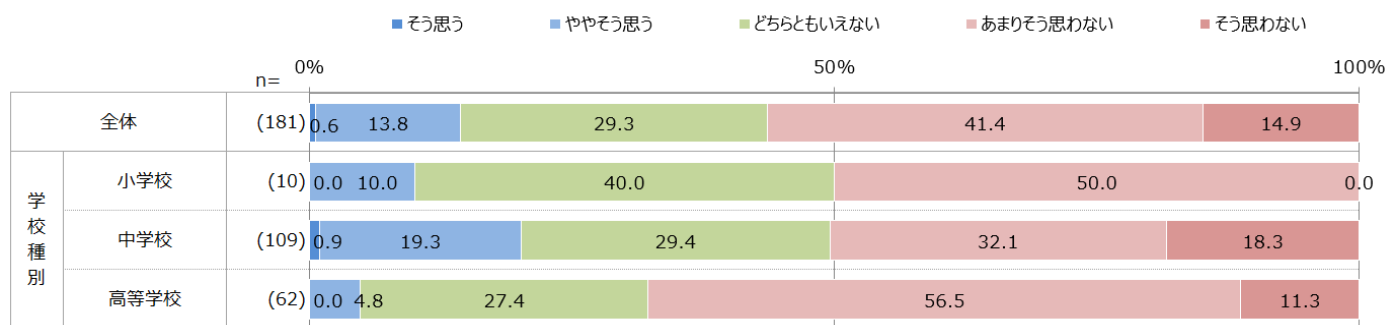
Q2S4. 生徒に対し、近視を放置することによるリスクについて伝える機会がある。(SA)



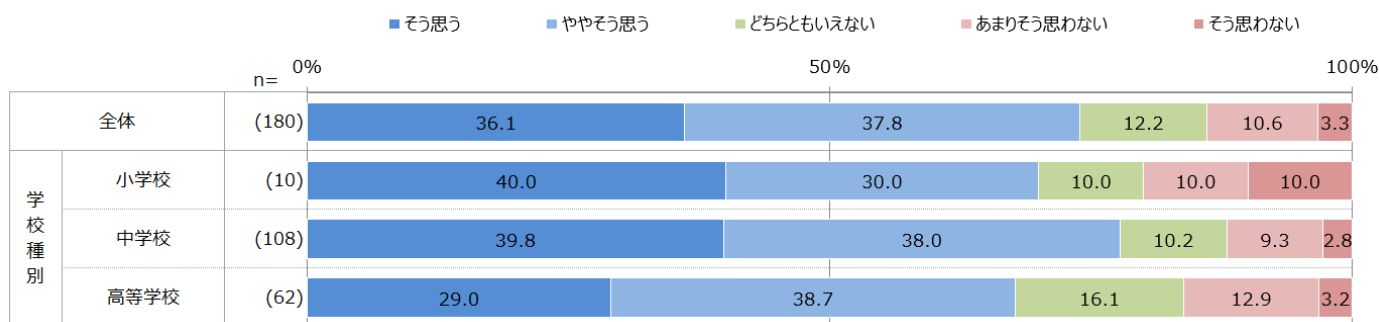
Q2S5. 目の健康や近視について、生徒と保護者等が家庭で話し合う機会が十分に持たれていると思う。(SA)



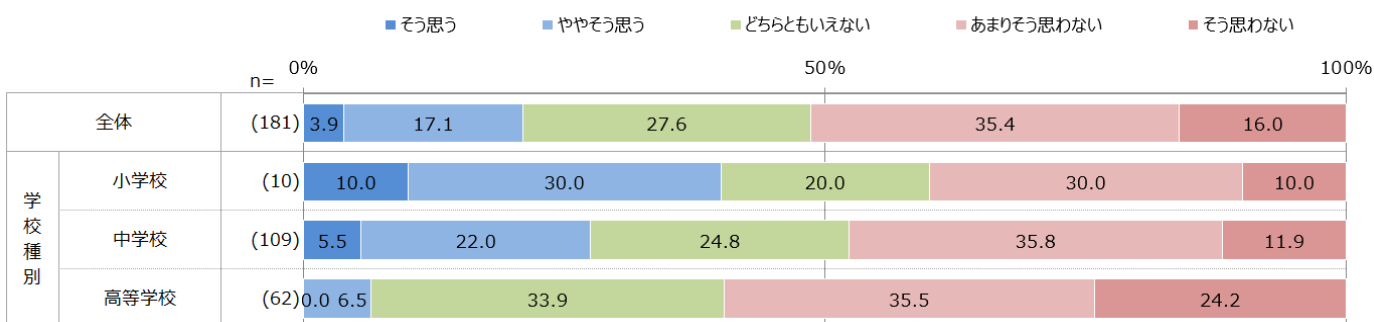
Q2S6. 目の健康や近視について、学校で指導する機会が十分に持たれていると思う。(SA)



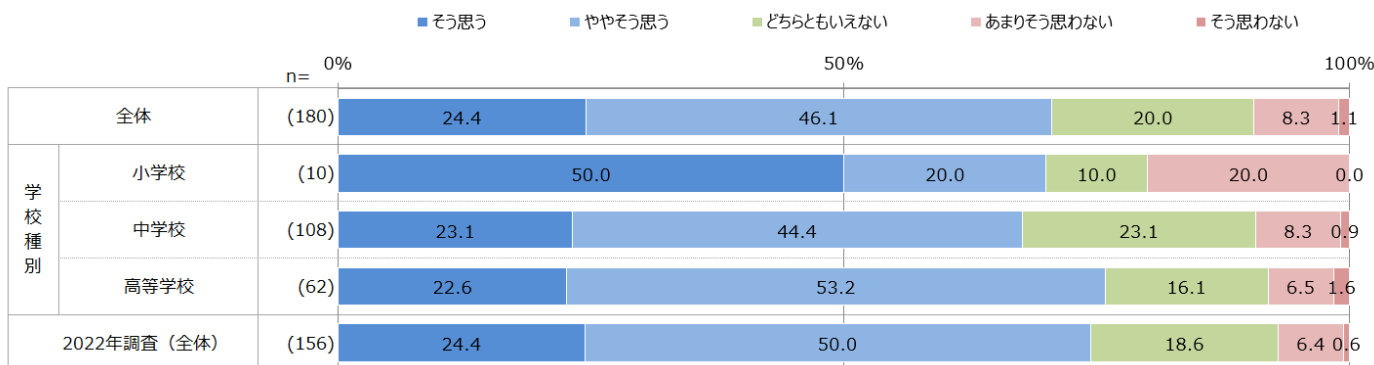
Q2S7. 近視進行を抑制する方法として屋外活動が重要だと知っている。(SA)



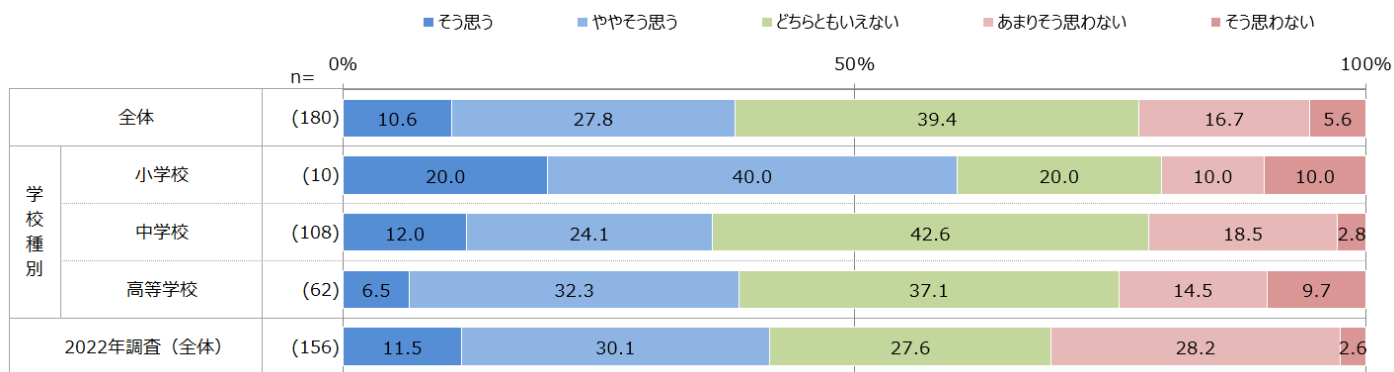
Q2S8. 近視進行を抑制する方法として屋外活動を積極的に取り入れるよう検討している、もしくは進言している。(SA)



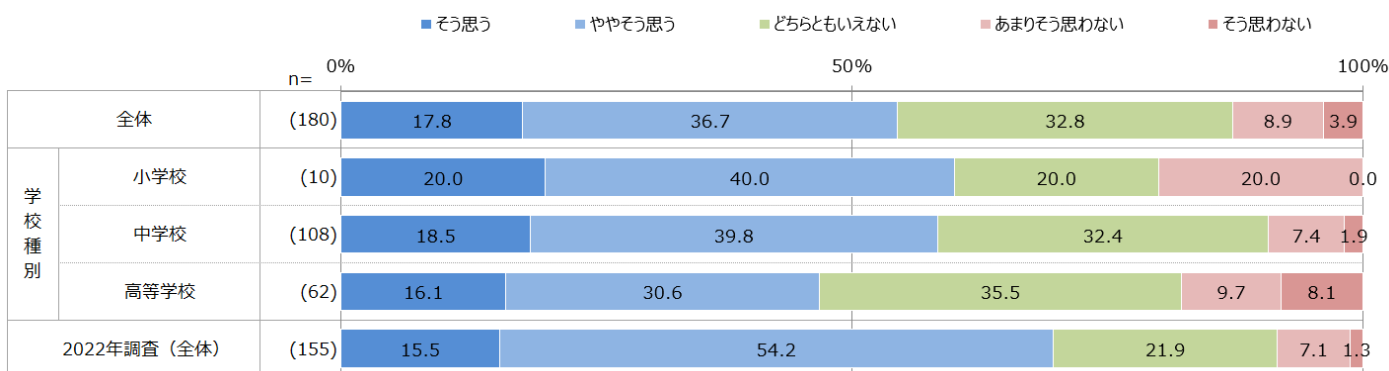
Q3S1. 学校でデジタル端末を使用する際、教室の明るさや画面の映り込みなど、環境への配慮を行っている。(SA)



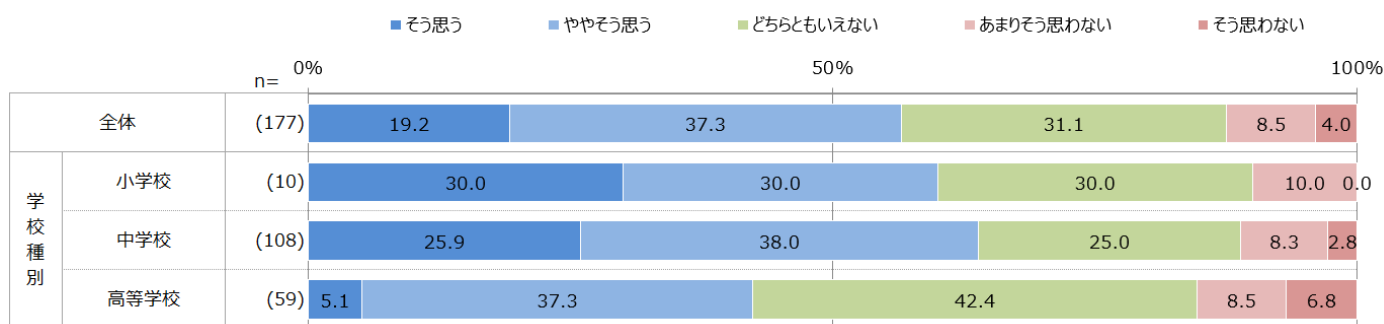
Q3S2. 学校でデジタル端末を使用する際、生徒に対し「目と端末の距離を 30cm 以上離す」「30 分に 1 回は 20 秒以上目を休める」などの健康上の指導ができています。(SA)



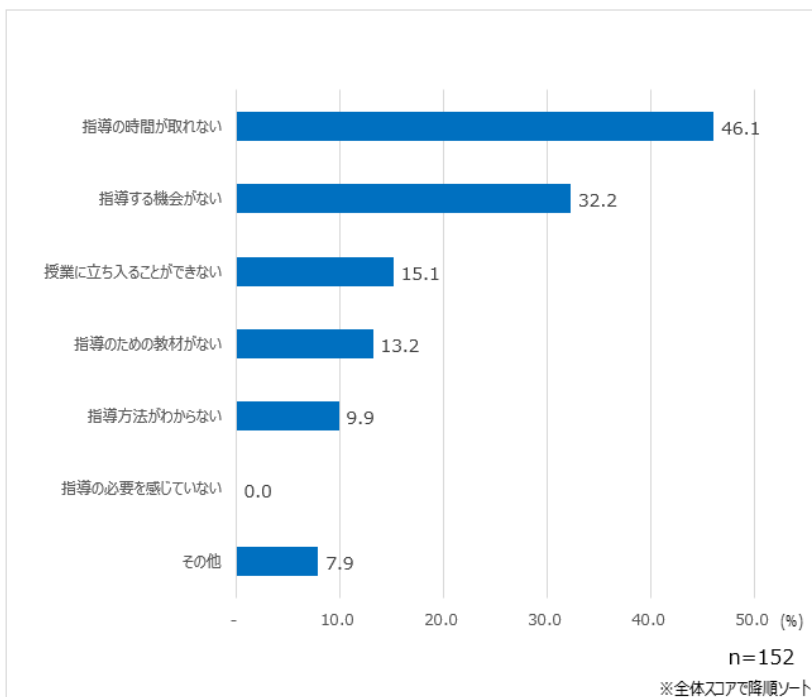
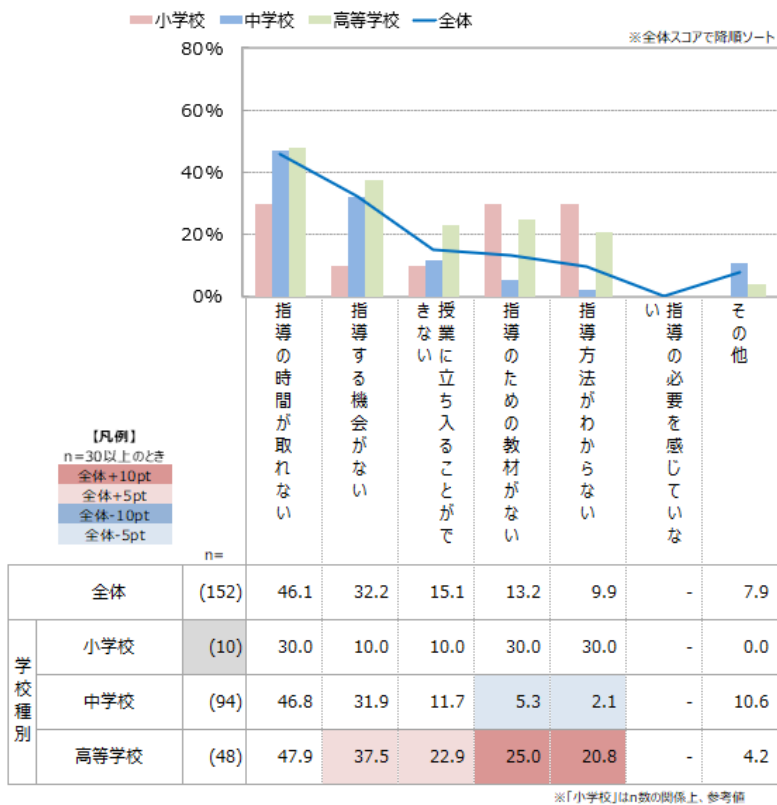
Q3S3. GIGA スクール構想の目的や、デジタル端末を活用した学び方の変容等について理解している。(SA)



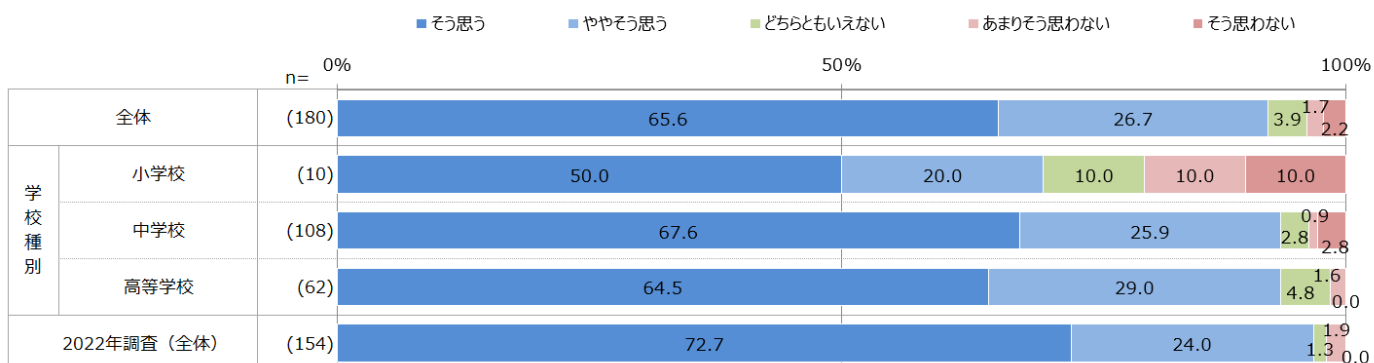
Q3S4. デジタル端末使用時の生徒指導に対するの悩みがある。(SA)



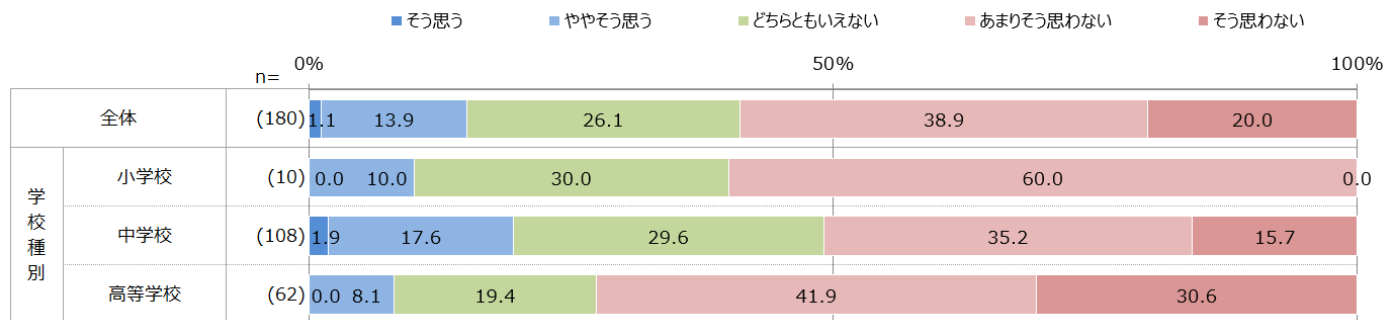
Q3S5 .デジタル端末使用時の生徒指導において具体的にどのような悩みがありますか？ (MA)



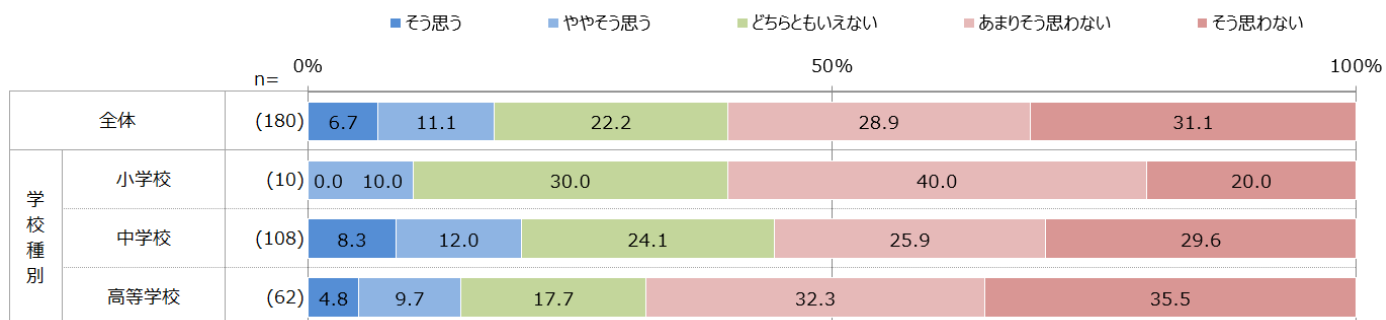
Q3S6. スマートフォン、タブレット、PC 等デジタル端末に依存していると思われる生徒がいる。(SA)



Q4S1. 眼疾患や目の不調の有無にかかわらず、生徒は定期的に眼科を受診していると思う。(SA)



Q4S2. 近視など症状がない場合も、生徒、または保護者に対し定期的な眼科受診を促している。(SA)



※小学校の数値は n 数が 30 未満のため参考値となります。

※小数点第二位で四捨五入し、小数点第一位までを算出しているため、比率の合計が 100%にならない場合があります。